

【質疑応答】

講師1：6年後のオリンピック・パラリンピックは、障害者を含めた外国人をどのように迎えるかが問題であり、最もすべきことの一つが英語での情報提供である。また、英語も that や where 等の接続詞をあまり使わないシンプルな構文とすることが重要である。恐らく、開催時にはスマートフォンを情報にかざせば、母国語に翻訳する機能が備えられる。そのことにより、外国からの来日者には、情報のバリアは少なくなる。それに加え、日本独特の表現を改善していく必要がある。

質問者1：以前の日本では、パーソントリップのデータなど公的な情報を取得するのに、時間も資金も必要であった。オリ・パラ開催においては、情報へのアクセスがポイントになると思うか、いかがか。

講師1：近年、日本ではオープンデータやオープンガバメントというような取り組みが行われ始めている。そこで論点となっているのが、機械での読込が可能かどうかという点である。画像での情報提供は、機械では読込むことができない。例えば、google エンジンでの検索であっても、画像での情報は検索されにくい。要は、情報へのアクセスというのは、視覚障害者の利便性の向上と同じである。基本は、テキストで提供することである。

講師2：パソコンが普及する前、視覚障害者の不便さは①情報が取れないことで自由に歩き回れない、②紙に書いてあることの読み書きが難しいことである。パソコンが普及したことにより、情報を自由にとれて歩き回れる。またパソコンは「入力、計算、出力」という3ステップになっており、計算は共通で、入力と出力はその人の状況に合わせて選べるのが、私たちの情報アクセスにとってとても大きい。このことにより、情報の読み書きが可能となった。

質問者2：複雑な段落構成や改行、装飾などの書式情報がないテキストデータの良いところは、内容がわかりやすいこと。単に音声で読み上げればよいというのではなく、音声で聞いて内容がわかる形式にすることが必要である。

最近、情報の不正アクセス防止のため、意図的に歪ませた文字と数字の羅列を再入力させることで、セキュリティ対策をしており視覚障害者には使えない。総務省のパブコメでも同様な手段を用いているが、どのような改善要求をすればよいか。

講師1：例えば、文字入力でない音声入力による代替手段を準備するよう要求すべきだと思う。X8341の中でも利用者の声、意見を聞きながら改善していくことが明記されている。

質問者3：①情報のアクセシビリティなどの重要性が分からない人が多いが、どのようなアプローチが考えられるか。②情報アクセシビリティについては社会負担で担うべきではないか。

講師1：①理解の促進については、最終的に政治だと思う。昨年度、ネット選挙が解禁されたこともあり、今後政治家に取り組んでもらう必要がある。②情報アクセシビリティは、障害者だけのものではないので、必要があれば増税により財源を賄う対策なども考えられる。

質問者4：情報については、世界に先駆けて取り組むべき。遅れを取り戻すには時間も費用もかかってしまう。また、情報産業の育成という意味でも取り組むべきである。

質問者5：公共交通機関の情報を視覚障害者に提供するときは、どのようなものがよいのか。

講師2：路線検索等で路線名だけでなく、番線情報も提供しているサイトを活用している。人に聞くときに、番線だと答えてくれる率が高まる。また、できるだけ多くの情報のあるサイトが利用しやすい。

質問者6：出口がホームのどこにあるか位置情報があるとよい。その情報を得られれば、乗る車両を選べ、危険なホームを歩かなくてもよい。また、万人にもわかるように、例えば山手線であれば、「〇〇駅寄り」という情報があればさらによい。

講師1：最近だと、有料サイトで詳細な乗換情報などを提供することが成立しているので参考になる。

以上